

2011年度(平成23年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年) 4月1日
-------	-------------------

校番 23	福山市立 城西中 学校
-------	-------------

1 学校教育目標

校訓 「挑戦・絆・創造」

『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

学校教育目標『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』に基づき、「安心して明るく生き生きと生活できる学校」をめざし、生徒が「来て良かった」、保護者が「行かせて良かった」、地域が「あって良かった」、職員が「勤めて良かった」と言えるような、全ての人々から愛され誇りの持てる学校づくりをめざす。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

めざす生徒像

- ①課題克服に向け、意欲を持って学ぶ生徒。
- ②友達を大切に、思いやりの心を育む生徒。
- ③自ら考え、責任をもって行動する生徒。

- 1 学力の向上を図るため「基礎学力の向上」にみんなで取り組む。
- 2 学校環境美化に取り組み、自信と誇りが持てる学校風土をつくる。
- 3 ボランティア活動を積極的に取り入れ、生徒の自尊感情を高める。
- 4 自治活動を積極的に取り入れ、生徒自らが主体的に行動できる学校づくりを進める。

3 自校の現状分析

- 1 基礎基本定着状況調査の結果は、3教科とも県平均を下回っている。学習習慣の確立と基礎・基本の確実な定着が課題であり、基礎学力を定着させる指導が必要である。
- 2 生徒の学習習慣の確立とともに本校生徒に応じた指導方法の工夫改善に努める必要がある。
- 4 研究課題、研修を系統的に仕組み、学校組織として授業改善を進めていかななくてはならない。
- 3 体力テストの結果も、県平均を下回っている。種目をしぼった焦点的な取り組みと部活動の活性化が必要である。
- 4 学校教育目標達成に向けて、学校が組織として一体となった取り組みをさらに充実させていくことが必要である。
- 5 「学力向上」「環境美化」「ボランティア活動」を起点にした「学校づくり」により、学校が落ちついてきた。こうした取り組みをさらに充実、発展させるとともに、自治活動を活発にした生徒自らの学校づくりを進めていかななくてはならない。

4 研究主題

(1) 研究主題

「学習習慣の定着を図り、生徒が主体的に学習する授業づくり」

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
県 市 市	小中連携咖喱 教育研究支援事業「全教科」 少人数指導推進支援事業	2011年(平成23年)～ 2011年(平成23年)～ 2011年(平成23年)～

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
① 基礎学力の向上	① つまずきを把握し、わかる学習を仕組むことで、基礎を身につけ、自ら学習しようとする意欲を育てる。
② 環境美化	② 荒れを起こさない学校風土を築く。
③ ボランティア活動	③ 人の役に立つ、社会の一員であると自覚させ自尊感情を高め、心を育てる。
④ 自治活動の活性化	④ 生徒自ら主体的に行動する学校づくり。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(中間) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(中間) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
一 確 か な 学 力	5	基礎学力の向上を 図る	★	継続	学習習慣の定着と基礎・ 基本の徹底を図る。	C	◇朝の学活で国・数・英の基礎的な学習を、各 教科、週に1回行い、学力が向上した生徒を 70%以上にする。(定期テスト合計点で検証)	c	□朝学活で基礎的な学習を実施し、1学期中間テストと期末テ ストを比較して、学力が向上した生徒は52%である。 ○朝学習と家庭学習に取り組んでいるが、学力向上の成果はまだ 見えていない。 ◎テスト発表中、社会・理科も基礎的な学習を実施する。
							◇適切な量の宿題を出し、家庭学習を1時間以 上する生徒を40%以上、30分以上する生徒 を60%以上にする。	a	□各教科で宿題を出し(国語・英語は毎日、数学は毎時間)、1 年生は自習ノートの取組を行い、家庭学習を1時間以上する生 徒は42%、30分以上する生徒は62%である。 ◎各教科で宿題を出していないに点検し、2年生も自習ノートに 取り組む。
二 豊 か な 心	2	各種の活動によ り、自尊感情を高 める	★	継続	自尊感情を高め、自己肯 定感を育成する。	B	◇各種ボランティア活動の参加延べ人数を860 人以上にする。	b	□10月末で552名である。 ○自己肯定感は59%であり、県平均65%より低い。 ◎校内ボランティアの回数を増やし、生徒に参加を呼びかける。
							▽全クラスの教室環境を統一し、教室環境美化 を向上させる。	c	□全クラスの掲示物を統一したが、教室環境美化は不十分であ る。廊下・階段の掲示物は充実している。 ◎一斉にロッカー整理をするなどの取組や委員会と連携して窓 ふきを徹底させる取組を行う。
三 健 や か な 体	1	自律を育成する	★	新規	生徒会活動を活発にし、 主体的に行動する生徒 の育成をする。	B	◇規律3要素の取組みを、生徒会活動、部活動 を中心に取り組む。挨拶がしっかりとできる 生徒を90%以上。遅刻をしない生徒を95%以 上。掃除をがんばる生徒を95%以上にする。	c	□規律3要素の生徒アンケート結果は85%、教職員アンケート 結果は60%である。特に、掃除についての生徒と教職員の差 が大きい。 ○挨拶、遅刻、掃除の取組を通して、生徒会活動が活発になっ ている。 ◎教職員が先に挨拶をする取組と委員会と連携した遅刻、掃除の 取組を行う。
							◇週に2回以上、部活動の指導を行い、部活動 指導の充実を図り、生徒の部活動出席率80% 以上にする。	a	□週2回以上部活動の指導を行っている教職員は78%、生徒の 部活動出席率は87%である。 ○部活動が充実しつつあり、大会で成果が出ている。 ◎新人駅伝大会への取組など部活動単位での活動を行う。
四 力 量 あ る 教 職 員	2	教職員の授業力 の向上。		継続	意欲が持て、わかる「授 業づくり」を推進する。	A	◇各教科1回以上の授業研究をする。一人3回 以上各研究会や研修会に参加する。そのこと を通して「授業がわかりやすい」生徒を70% 以上にする。	a	□各教科1回以上の授業研究と一人3回以上の研修会参加は達 成できる見込みである。「授業がわかりやすい生徒」は75%で ある。 ○授業が分かる生徒が増えている。 ◎授業のねらいを明確にし、発表の仕方の指導を徹底する。
五 さ れ る 学 校	5	校長を中心とし て組織的に行う 学校マネジメント		継続	学校教育目標達成に向け てベクトルを合わせた組 織体制の充実を図る。	A	▽学校評価項目の検証を、各学期に1回行い、 マネジメントサイクルを活かした取組みを 進める。	a	□年度始めに学校評価年間計画及び生徒アンケート教職員アン ケートを作成し、2回検証を行っている。 ○学校教育目標達成に向けた組織体制が充実している。 ◎中間自己評価で確認した取組を着実に実施する。